

<p><研究課題名></p>	<p>RF-1012</p>	<p>交通行動変容を促すCO2排出抑制政策の検討とその持続可能性評価</p>
----------------------	----------------	--

<研究概要>

本研究課題は、低炭素型社会を実現するための交通政策のうち、課税や運賃割引などの経済的政策に着目し、その効果と実現可能性を検討することを目的としている。具体的には、課金・割引金額やその付与タイミング等が異なる多様なインセンティブ付与形式を想定した上で、それらに対する利用者の認知メカニズムを明示的に考慮した行動モデルを開発し、最終的に環境・経済・社会の3側面から各政策の持続可能性を評価することを目標としている。本研究課題は4つのサブテーマから構成され、具体的研究内容やサブテーマ間の関連性は以下の通りである。

(1) 実験経済学的アプローチによる交通行動変更意向の分析ならびに政策検討
 室内実験により、様々な経済的政策に対する損得勘定の認知メカニズムを明らかにし、それを明示的に考慮した交通行動モデルを構築する。

(2) 実証実験による交通行動変化の分析と政策課題の抽出
 アンケート調査や交通行動を詳細かつ長期的に把握することが可能なGPS機能付携帯専用端末を用いた社会実験を実施し、経済的政策実施下における個人の交通行動の変化を分析する。また、これらの結果をサブテーマ(1)で構築した行動モデルにフィードバックすると共に、サブテーマ(1)の結果も踏まえて、政策課題の抽出を行う。

(3) 都市圏レベルでのCO2削減効果算出システムの開発と効果の都市間比較
 都市圏レベルでの政策効果を予測するシステムを開発した上で、構築した行動モデルならびに実験データに基づいて政策効果をシミュレートし、交通サービス水準の異なる複数都市を対象として、主に環境面と経済性の観点から政策の持続可能性を評価する。

(4) 政策実施下における公平性の分析と低炭素社会実現に向けた政策展開の検討
 アンケート調査等を用いて各種経済的政策に対する市民の受容可能性を把握すると共に、サブテーマ(3)の結果を、個人や都市間でのモビリティの公平性の観点から分析することにより社会的持続可能性を検討し、環境・経済面での持続可能性と併せて総合評価を行う。さらには、望ましい政策を効率的に実現するための体制や制度設計の提案、都市別の政策展開シナリオの検討も行う。

<p><研究代表者></p>	<p>倉内 慎也</p>	<p>愛媛大学大学院・理工学研究科・講師（37才）</p>
----------------------	--------------	-------------------------------

No.	サブテーマ名		氏名	所属機関名・部局・役職名
(1)	実験経済学的アプローチによる交通行動変更意向の分析ならびに政策検討	◎	倉内 慎也	愛媛大学大学院・理工学研究科・講師
(2)	実証実験による交通行動変化の分析と政策課題の抽出	○	佐藤 仁美	名古屋大学大学院・環境学研究科・特任助教
(3)	都市圏レベルでのCO2削減効果算出システムの開発と効果の都市間比較	○	薄井 智貴	東京大学大学院・空間情報科学研究センター・特任助教
(4)	政策実施下における公平性の分析と低炭素社会実現に向けた政策展開の検討	◎	倉内 慎也	愛媛大学大学院・理工学研究科・講師